

硝子体手術を1月より開始。黄斑上膜、黄斑円孔、硝子体出血などの網膜硝子体疾患の患者さんを受け入れてまいります。

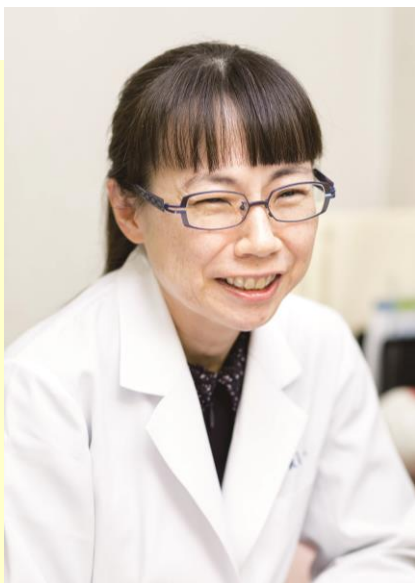
B1手術センター開設にともない、眼科は「硝子体手術」を1月より開始いたします。これにより概ねの眼科疾患を当院でお受けできる体制となりました。

黄斑上膜、黄斑円孔、硝子体出血、糖尿病性網膜症、網膜剥離などの手術が必要な患者さんがいらしたら、ぜひご紹介ください。

「網膜剥離は準緊急になるため手術室の空き状況にもありますが、他の医療機関で対応できない場合など、極力受け入れていきたいと考えております」と北原

眼科部長

北原 由紀 (きたはら ゆき)



1998年日本医科大学卒業。専門は網膜硝子体、斜視・弱視。日本眼科学会眼科専門医

眼科部長。「黄斑上膜、黄斑円孔は、当院で対応できるようになりました。ベースに糖尿病網膜症がある硝子体出血で予後不良な場合などは大学病院への紹介のケースもありますが、まず一度荻窪病院で」と開業医の先生に言っていたかのような、地域に開かれた眼科でありたいと思っています。

術中OCTを導入。手術の質を上げ、地域医療に貢献

そのためにも手術の質を上げていきたいと話す北原部長。

「今回、〈術中OCT〉を導入しました。硝子体出血等で、術前にOCTを施行できない場合、術後のOCTにて治療を要する疾患が見つかる、再度手術を検討せざるをえません。〈術中OCT〉があると、硝子体出血を取った後、その場で手術できる所見を見つけることができ、1回で、より再手術の可能性が少ない手術ができます」。

また白内障手術で乱視矯正眼内レンズをより正確に入れるための〈乱視用眼内レンズ手術支援システム〉も採用。顕



微鏡視野内に乱視軸ガイドを投影し、侵襲なく正確な手術をサポートします。

「乱視用の眼内レンズの適応も広がっていきたく思います。またiStentを用いた超低侵襲緑内障手術はすでに対応可能です。白内障手術と同時の場合のみの保険適応ですので、白内障で、2種以上の緑内障の点眼薬を使用している患者さんがいらしたら、ご相談ください。1種は減らせるくらい目の圧下効果があると言われています。当科はこれからも地域の先生方と共に患者さんの『見えやすさ』を追求してまいります」。



A 眼科手術用機器 左より、白内障手術システム「センチュリオン」、硝子体手術システム「コンステレーション」、Carl Zeiss社眼科手術用顕微鏡「RESCAN 700」。手術用顕微鏡には術中OCTと乱視用眼内レンズ手術支援システム「CALLISTO eye」を搭載。大学病院レベルの治療が可能に。

B 2019年11月に「B1手術センター」が開設し、手術室が2室増設となりました。白内障などの日帰り手術にも対応できるようリカバリー室を4室設置しています。

消化器内科

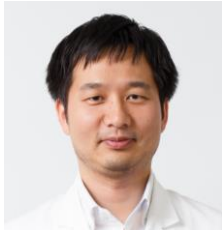
小腸カプセル内視鏡を導入

当院は、小腸潰瘍や小腸腫瘍、クローン病などの小腸疾患が疑われる患者さんに対する「小腸カプセル内視鏡」を導入しました。カプセルは大きなビタミン剤程度の大きさで（長さ26mm・直径12mm）、患者さんの身体に装置した受信機に約5万枚の画像を送ります。本番の前に腸の閉塞がないかパテンシーカプセル（消化管開通性評価カプセル）を飲んで確認します。まずは、消化器内科外来へのご紹介をお待ちしております。

脊椎センター

腰椎椎間板ヘルニアに対して酵素注入療法を開始

脊椎センターでは、腰椎椎間板ヘルニアに対して、コンドリナーゼ（商品名ヘルニコア）注入療法を行っております。全身麻酔の必要がなく、1〜2泊の短期入院ですみ、侵襲性が低いのが大きな特色です。この治療法は18年から日本で行われるようになり、有効性が多数報告されてきております。ご紹介は脊椎センター・大門医師で承ります。



整形外科・脊椎センター医員
大門 憲史 (だいまん けんし)
2009年慶應義塾大学医学部卒業
日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医



内科部長
中村 雄二 (なかむら ゆうじ)
1993年慶應義塾大学医学部卒業
日本内科学会総合内科専門医
日本消化器病学会消化器病専門医 他

皮膚科

即時型アレルギーに対するプリックテスト・スクラッチテストを開始

皮膚科は19年12月より、即時型アレルギーのプリックテスト・スクラッチテストを開始しました。こちらは基本的には入院管理にて、皮膚に食物や薬剤などのアレルギーを穿刺し、反応を診る試験です。プリック（点状の小さな傷）で陰性の場合、スクラッチ（細かい針でつける出血しない程度の線状の傷、皮内テスト（アレルギー液0.02mlを皮内に注射）、内服チャレンジテスト（アレルギーを少量ずつ内服、摂取と、必要に応じ、負荷を上げていきます）。

ラテックスアレルギーに対してはプリックテストの他、One finger testなどによる負荷試験を行います。また薬剤については、即時型アレルギーの薬疹（蕁麻疹、血管性浮腫、アナフィラキシー）のみ適応となります。該当の患者さんがおられましたら、ぜひご相談ください。



皮膚科部長/診療部長
布袋 祐子 (ふてい ゆうこ)
1992年慶應義塾大学医学部卒業
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医

療養支援看護師のご紹介

19年10月より、看護部・志賀正恵看護師が療養支援看護師に着任しました。「病棟と訪問看護ステーションでの勤務経験を活かし、在宅退院に向けて患者さんやご家族と関わっていきたく思います。家での療養生活に不安を抱く方は多いですが、院内外の様々な職種の方々とチームでご本人・ご家族を支えていきたいです」と志賀看護師。病診・病介連携、退院前カンファレンスなどの際は、よろしくお願い申し上げます。



地域連携室のMSWと一緒に(左から2人目)